書き抜き読書ノート 2145	2016 年 6 月 30 日

経済同友会・教育改革委員会委員長 天羽稔著「私見卓見」OPINION 日本経済新聞 2016 年 6 月 29 日朝刊を読む

通年採用広げ、就活は卒業後に

１．（１）6 月 1 日から大企業を中心に 2017 年に卒業する大学生の面接選考が始まった。
（２）日本企業の多くは新卒一括採用を続けており、学生にとっては失敗すると希望の仕事に就けない「ワンチャンス就活」である。
（３）こうした一括採用の弊害が顕在化して社会問題になっている。

２．（１）一括採用は効率的に一定水準の人材を確保できるメリットがあるが、採用数は景気動向にも大きく左右されることに注意しなくてはいけない。
（２）新卒で正社員に採用されなかった場合、非正規雇用のまま働く若者も少なくない。

３．（１）ワンチャンス就活では、学生は在学中に就活準備に多くの時間を割くこととなり、本分である学業に十分な時間がとれない。
（２）最近は採用に先立つ企業のインターンシップ（就業体験）など、就活は 3 年生から始まっている。
（３）チャンスが一度限りの就活では希望の仕事に就けない雇用のミスマッチも少なくないだろう。
（４）実際、厚生労働省によると大卒後 3 年以内の離職率は 3 割と高止まりしている。

４．（１）新卒一括採用は終身雇用や年功制とともに経済成長を支えてきた。
（２）だが日本企業のグローバル化が進むなか、多様な人材を得るために採用のあり方を見直す時期に来ているのではないか。
（３）在学中の学業を尊重し、しっかりと資質・能力を高めた若者を採用する新たな選択肢が必要だ。

５．そこで経済同友会では新たな新人採用の仕組みとして「新卒・既卒ワンプール／通年採用」を提唱している。

６．（１）企業は新卒者に学部卒業後 5 年程度までの既卒者を加えた人たちを「ワンプール」ととらえ、選考する。併せて卒業後に就職活動を始める通年採用も実施して、いずれも新人として迎える。

（２）この仕組みを導入すれば、学生は焦ることなく、在学中にしっかりと勉学に励むことができると期待している。

（３）修士や博士課程を修了した学生の採用も円滑にできるとみている。

７．（１）私も 20 代で米国に留学し、大学院修了後の就職活動で米デュポンに入った。

（２）学生時代はアルバイトで学費を稼ぎながら勉強に没頭した。

（３）今の学生も勉強しながら様々な体験を通じて職業観を養ってほしい。

（４）貴重な経験の時間を就職活動が奪うのは本末転倒だ。

８．（１）その意味で、学業に集中できるワンプール採用の意義は大きい。

（２）卒業後いつでも就職活動ができる通年採用を当たり前にするために、企業の採用活動のあり方を引き続き考えていきたい。

＜コメント＞

デュポンの社長、会長を務められ、現在は公益社団法人経済同友会、教育改革委員会委員長の天羽（あもう）氏の提言は極めて現実的だ。私は、天羽氏の提言に加え、現在の 2 学期制を 3 学期制に、ゆくゆくは 4 学期制（クオーター制）にまでもっていき、有給制のインターンシップ制を正式なカリキュラムに本格導入すると、学生が多様な選択肢のある人生を歩む上でより有用と考える。

― 2016 年 6 月 30 日（木）　林　明夫記―